

第5回 令和7年8月10日からの大雨時における排水機場等の稼働状況等に関する検証委員会議事等（要約）

1. 開催日時 令和8年（2026年）3月19日（木） 10：00～11：00
2. 開催場所 上下水道局 別館 3階大会議室
3. 公開又は非公開の別 非公開（冒頭のみ公開）
4. 傍聴者数 なし
5. 議事に対する発言等要約
 - (1) 事務局より委員の出欠を確認し、会が成立していることを報告
 - (2) 議長より以下の議事を進行

●前回までの振り返り

【事務局】（前回の振り返りの説明）

- ・山ノ下排水機場について
- ・第4回議事資料補足修正について
- ・浸水解析シミュレーションを用いた検証について
- ・その他排水機場等について

【委員】

浸水解析シミュレーションの精度に関して、NASH 係数は非常に高い値であったので精度についても信頼できるものであるという議論であったが、実際の物理現象を完全に再現したわけではない。特に、流出の過程や家屋等の配置などの細かい情報までは考慮していないので再現性について NASH 係数だけでは判断できないので留意が必要である。

【委員】

「再現性が高い」だけの記載では、精度的な面で信頼度が高いといった誤解を招く場合があるので、考慮できていない部分を条件として明示しておかないとその後の数値の信頼性に影響を与えかねない。

【委員】

計算の条件を明確に提示することが重要である。

【委員】

マニュアルについて、あくまでも緊急時においてその場の判断が必要な際の職員の判断の補助物のような扱いであると考えている。マニュアルを浸透させることは重要であるが、応用力を働かせながら対応ができる職員育成も重要である。

【委員】

今回、二つの施設でポンプが停止した事象が発生したが、国、県、市それぞれ施設を管理する中で、次の出水期に向けて短期的にできる対策などを連携して実施できるものを検討していきたい。

●答申案概要について

【事務局】（答申案概要について説明）

【委員】

これまで4回の検証委員会での意見が反映されていると感じた。記載してあることについて着実に実施して欲しい。ハード対策には一定の時間を要することに対して、来年度の出水期が迫っている中で、浸水リスク情報をどのように住民の方に伝えるか、住民にリスク情報を認識してもらうことが重要である。

【委員】

答申案概要にも記載してある、「市民等に対して、分かりやすい形で情報提供し、それらの周知に努めること」の通り、特に中長期対策の実施状況も情報発信し、提言の内容を実施していることを伝えてほしい。

【委員】

今回の事象について、流域全体の視点で浸水対策を検討することが重要であり、国・県・市の3者の計画を共有し、確実にを行う場を設けることが必要である。

【委員】

一市民として、自助共助も大事であることは理解しているが、やはり公助を期待してしまう。期待通りにならなかったときに行政に対する信頼が低くなってしまふことを念頭において欲しい。市民の安全や財産を守ることは行政の役割のひとつであり、それが故に行政に大きな期待が寄せられてしまふ。公助には限界があることは理解しているが、何が限界であるか共有する意味においても、現在の計画等を多くの市民に周知する努力はやっていかなければならない。

【事務局】

今回の検証委員会でもさまざまな意見が出されていますように、短期だけでなく継続して実施できるように取り組む。

【委員】

提言として記載してある内容は大変重要であり、フォローアップしていくことを提言の中に記載すべき。これは、国・県・市の流域治水の取り組みを進捗状況として共有していく中で重要となる部分である。

【委員】

ハザードマップの周知について、具体的にどのように実施していくのか。

【事務局】

現在、内水浸水想定区域図はホームページに公開している。本年度中に現在公開している内水浸水想定区域図に浸水継続時間を追加する作業を完了する予定である。この作業が完了後、危機管理部門が、ハザードマップの見直しを行った上で、その後公開するといった状況である。

【委員】

ハザードマップはホームページに公開してあるが、認識していない住民の方への周知方法についてはどのように考えているのか。

【事務局】

内水浸水想定区域図については各区役所や各まちづくりセンターにも常備している。また、危機管理部門から各家庭に区ごとのハザードマップの配布を実施している。危機管理部門がハザードマップの見直す際に市民全体に行き届く周知方法を提案する。

【委員】

議事資料に「坪井ポンプ場の能力が汚水送水を主としており、雨水排除能力がないことが分かる。」と記載してあるが、この記載だと雨水排除能力が無いことが検証の中で分かったと誤認を生じてしまう場合がある。

【事務局】この記載については、改めて坪井ポンプ場が雨水排除でなく汚水排除を主たる目的としたものであることを表現したもの。

【委員】

事象については誤ってはいないが、議事資料の「坪井ポンプ場の稼働停止が浸水に与えた影響は小さい」といった内容と合わせて記載した方が良い。

【委員】

要因として雨水排除を主たる目的としていないから稼働停止した影響は小さいといった表現にした方が良い。

【事務局】

ご意見を踏まえて修正する。